令和7年度PDCAサイクル（がんサポートチーム）

P 計画

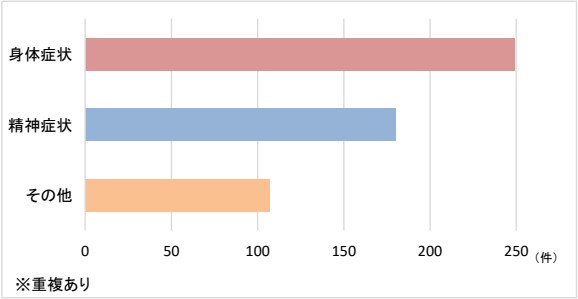
【目　　標】 がんサポートチーム（以下、CST）活動や研修会開催を通して、院内全体の緩和ケアの充実を図る

・CSTへの介入依頼は身体症状・精神症状へのケアを中心として多様な内容が含まれる（図1）。

・がんの苦痛症状に対して、医療スタッフ全体の緩和ケアの知識・技術を強化する必要がある。

・その他として、倫理的問題やスタッフへのケアなど個別性の高いケアが求められている。

図1. CSTへの介入依頼内容（R6年度）



D 実行

1. CST活動
- CSTに依頼があった患者に対して、依頼元スタッフと情報共有や連携を図り、個別的に介入した。
- 依頼傾向や介入状況を分析し、CSTに対するニードや今後の課題について検討した。

2. 研修会開催
- 医療スタッフの知識向上のために研修会を実施した。

3. ケアの質向上
- 症状緩和マニュアルを改訂した。
- 病棟カンファレンス（倫理カンファレンス、デスカンファレンスなども含む）に参加した。
  必要に応じて、症状緩和マニュアルなどに基づき緩和ケアに関する情報提供をカンファレンス内で行った。

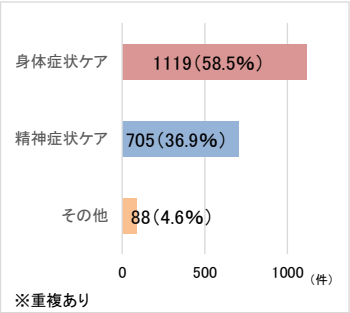
C 評価

1. CST活動
- 依頼件数は計207件で、依頼内容は前年度までと同様の傾向がみられた。
- 介入実施内容は、依頼内容に比例して身体症状に対するケアが最多であったが、精神症状に対するケアも約4割を占め、重点的な課題であることが示された（図2）。

2. 研修会開催
- CST多職種が院内外の医療スタッフを対象とした研修を行った。
  - オンコロジーセミナー（7/8）　118名
  - 緩和ケア研修会（8/2）　19名
  - がん看護研修Ⅰ（11/17）　62名

3. ケアの質向上
- カンファレンス参加を通して、患者の個別性に合わせたケアの充実やスタッフに対するサポートを行うことができた。
  - 病棟カンファレンス：7部署　10件
  - 倫理カンファレンス：3部署　5件
  - デスカンファレンス：6部署　11件

図2. CSTの介入実施内容（R7年度）



A 改善

【来年度に向けた取り組み】

1. CST活動
- CST活動や病棟カンファレンスへの参加を継続し、院内の緩和ケアの質向上を目指す。

2. 研修会開催
- 院内外の多職種に向けた研修を継続する。
- 精神症状に対するケアについては、来年度のオンコロジーセミナーのテーマにとりあげ院内における精神症状に対するケアの質向上を図っていく。

3. ケアの質向上
- 改訂した「症状緩和マニュアル」について、院内スタッフに周知する。